

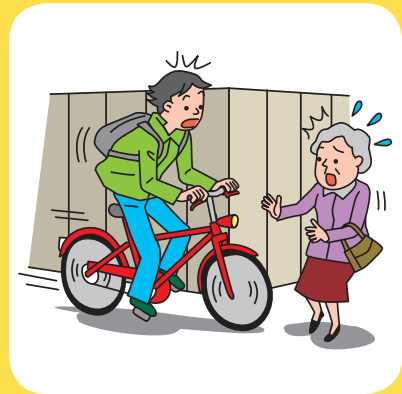
Q1 平成23年の自転車乗用中の交通事故死者数を年齢層別にみると、最も多いのは高齢者（65歳以上）ですが、その構成率は次のうちどれでしょう？

- ①約45% ②約50% ③約55% ④約60%

Q2 自転車対歩行者の死傷事故（平成14～23年）に関与した自転車利用者（第1当事者※）を年齢層別にみると、最も多い年齢層は次のうちどれでしょう？

※第1当事者＝交通事故の当事者のうち過失が最も重
い者、又は過失が同程度の場合は被害が最も軽い者

- ①13～15歳 ②16～18歳
③19～24歳 ④25～29歳



Q3 自転車対歩行者の道路別行動別死傷事故件数（平成19～23年）の中で、最も多い事故形態は次のうちどれでしょう？

- ①歩道を通行中
②非分離（歩車道区分なし）道路を通行中
③横断歩道外横断中
④横断歩道横断中の自転車交差

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736

Q 1 解答 ④約 60%

<解説>

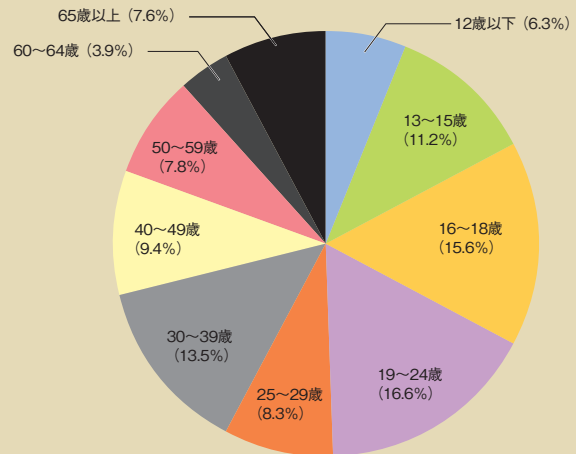
平成 23 年の自転車乗用中の交通事故死者数を年齢層別にみると、高齢者（65 歳以上）が最も多く 59.8%を占めている。負傷者数では若者（16～24 歳）や子ども（15 歳以下）が多く、高齢者が占める割合は 17.2%であることから、高齢者が乗用している自転車が事故に遭った場合は死亡事故につながりやすいといえる。そのため、高齢者の方々には自分の命を守るためにも自転車の交通ルールを遵守し、事故が起こりやすい交差点では必ず一時停止を行い、安全確認をしっかりと安全運転に努めてほしい。また、ドライバーやライダーは高齢者が乗用している自転車の近くを通る時は注意が必要である。

Q 2 解答 ③ 19～24 歳

<解説>

自転車対歩行者の死傷事故（平成 14～23 年）に
関与した自転車利用者（第 1 当事者）を年齢層別に
みると、最も多い年齢層は 19～24 歳（構成率・
16.6%）。次いで、16～18 歳（同・15.6%）、13
～15 歳（同・11.2%）と、13～24 歳の若年層が
半数近くを占めている。また、被害を受けた歩行者（第
2 当事者）を年齢層別にみると、高齢者（65 歳以上）
が約 4 割である。中学・高校生を中心とする若年層
の自転車利用者は、自転車は車両であることを再認
識し交通ルールを遵守するとともに、歩行者に対し
て思いやりを持って運転してほしい。

●自転車対歩行者の死傷事故に関与した年齢層別自転車利用者数（第 1 当事者）
（平成 14～23 年・構成率）



Q 3 解答 ①歩道を通行中

<解説>

自転車対歩行者の道路別行動別死傷事故件数（平成 19～23 年）をみると、最も多い事故形態は「歩道を通行中」（構成率・20.7%）。次いで、「横断歩道外横断中」（同・19.9%）、「横断歩道横断中の自転車交差」（同・7.2%）、「非分離（歩車道区分なし）道路を通行中」（同・5.6%）」と続く。歩道をはじめ、歩行者がいる場所を自転車で通行する際は、歩行者優先の意識を常に持ち、歩行者の通行を妨げる場合は一時停止をして、速度を控えた運転をすることが事故防止につながる。

※文中のデータ、グラフの出典は、公益財団法人 交通事故総合分析センター資料

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736